

山形シンポジウム 白洲山荘見学と蔵王散策 2012年10月21日(日)

2012年10月20日(土)

<山形シンポジウム>

期 日:2012年10月20日(土)

時 間: 受付/13:00~13:50 シンポジウム/14:00~17:00

場所:山形総合福祉センター(駐車場有り)

費 用:一般 ¥1,000-(資料代)· 学生 無料

募 集:100名

★懇親会有り(事前申込み制、定員:15名~20名)

時間:17:30~21:00

場所:「オビハチ蔵」山形市十日町3-1-43 16 023-626-2737

http://ojisho.com/2010kura_web/kuraindex.html

会費: ¥4,000-(貸し切り、飲み・食べ放題、禁煙)

<白洲山荘見学と紅葉の蔵王散策>

期 日:2012年10月21日(日)

時 間:9:30~15:00(昼食:蔵王「シャモニー」にて、飲食代は自己負担)

受 付:9:00 蔵王スカイケーブル駐車場

費 用: ¥1,000-(ガイド料)

募 集:20名

・主 催: N P O法人元気・まちネット/東京

・共催:やまがた街角

・後 援:山形県、山形市、山形新聞・山形放送

蔵王温泉観光協会、白洲次郎を語る山形の会

・協 賛:蔵王ロープウェイ株式会社

白洲次郎が東北電力初代会長時代に蔵王を気に入り、ヨーロッパの山荘を模したヒュッテ・ヤレン (現三宅山荘)を建てスキーを楽しんだのが、昭和32年〜昭和34年でした。

ビールやチーズをザックに詰めて蔵王スカイケーブルに乗り、ドッコ沼から歩いて蔵王山頂を目指しました。山頂付近の雪原で冷やしたビールを仲間と楽しく飲んだことが、白洲夫妻の長女:牧山桂子さんの著書「次郎と正子」に描かれています。

ヒュッテ・ヤレンで珈琲を淹れたり、仲間と将棋を指したり、ソファーで寛ぐ白洲次郎のお宝写真50枚も入手することが出来ました。

これらの写真をご紹介しながらなぜ蔵王を「東洋のサンモリッツ」にしようと思い立ったのか、日本のスキー場が衰退した原因は何か、スキー場を抱えるまちがどうしたら昔の賑わいを取り戻すことが出来るのか、皆さんで自由に楽しく考えてみたいと思います。

<20日(土)山形シンポジウム・プログラム概要>

・14:00~14:30 挨 拶 山形市観光協会会長、蔵王温泉観光協会会長: 齋藤長右衛門 蔵王ロープウェイ株式会社代表取締役社長: 大久保靖彦

第一部:ヒュッテ<u>・ヤレン(三宅山荘)について】</u>

- ・14:30~15:10 白洲次郎が愛した蔵王/鎮守の杜構想について/矢口正武(元気・まちネット代表)
- ・15:10~15:30 ヒュッテ・ヤレンの建築解説/萩生田秀之((株)KAP-級建築士事務所)
- ・15:30~15:40 休 憩

第二部:パネルディスカッション/スキー場活性化プロジェクト/司会矢口正武】

・15:40~17:00 スキー場の現状と課題、活性化について意見交換

▶白洲次郎は、なぜ蔵王を「東洋のサンモリッツ」にしたかったのか

▶なぜ日本(蔵王)のスキー場は衰退したのか

▶どうしたら再生・復活が出来るのか

<パネラー>

- ・加藤 康弘(山形蔵王、月山、鳥海山などをメインフィールドするガイドクラブ「mannzu」代表、山形市生まれ、44歳)
- ・佐藤 正宏(金山スキークラブ所属,山形県スキー連盟技術員。山形県職員。スキーをこよなく愛するサンデースキーヤー。新庄市生まれ、45歳)
- ・尾日向梨沙(編集者。10年以上、スキーを専門に取材・編集。『Sk』『大人のスキー』『POWDER SK』を担当。東京生まれ、神奈川在住)
- ・佐野 千晶(会社員。仕事の傍ら10年以上、地域活性化のボランティア活動に従事。元気・まちネット理事。横浜生まれ、渋谷区在住)

《申込み》 NPO法人元気・まちネット/東京 (担当:矢口)

Mail: yaguchi.m@so-kk.jp Fax: 03-3829-4692

《締 切》 2012年10月17日(水)

参加申込	20日(土)				21日(日)	
	シンポジウム		懇親会		白洲山荘見学/蔵王トレッキング	
	一般	学生				
氏 名			性別		年 齢	
電話番号			E-Mail			
住 所	〒		-			